

《第 493回(2022年7月14日)子どもの本の読書会記録》参加者:7人

時間:10:00~11:30 場所:オーテピア 4階集会室

## 『みんなのためいき図鑑』 村上 しいこ/作, 中田 いくみ /絵 童心社

本書は、第 68 回青少年読書感想文全国コンクールの、小学校中学年の部の課題図書です。

たのちんのクラスは、各班でオリジナル図鑑を作ることになりました。他の班が順調に進める中、たのちんの班はなかなか意見がまとまりません。たのちんは重い気持ちのまま、同じ班で保健室登校の加世堂さんに、図鑑のことを伝えに行きます。図鑑のことを考え、思わず溜息をついてしまうたのちん。すると加世堂さんは、人形のような男の子の絵を描いて、たのちんに渡します。加世堂さんが「ためいきこぞう」と名付けたその絵は、家に持って帰るとなんと喋り始め…。

次に、読書会に参加した方の感想を紹介します。

●溜息というと暗いイメージがあるが、明るい表紙で手に取りやすい。溜息を擬人化しているところや、「ためいきこぞうは自分に顔が似ている」という設定が面白い。喧嘩がありながらも、ほのぼのとしているのがいい。また、溜息と幸せといった、形ないものを繋げて考えているのが面白い。こどもが読んだら共感する作品だと思う。最後まで楽しく読めた。

●楽しく読めた。とても上手くまとめている。ファンタジーのような要素があるので、こどもは惹きつけられると思う。たのちんの、周りの声をきちんと聞いて、人を繋げているところがいい。メインキャラクターではないけれど、尾崎くんと小石川さんに共感した。溜息を分類したのは面白い。イラストもお話にピッタリ。学年関係なく楽しめる作品だと思う。

●小雪ちゃんの表情がよく描かれている。尾崎君も気になるキャラだった。54 ページで七保ちゃんが話していたことは、女子ならだれでも共感すると思う。129 ページの「ちょっとは、むりしてよ」という言葉は、加世堂さんに一歩踏み出すきっかけを与えたんじゃないかな。自分をどこに置くかによって感じ方が変わる、良い作品だと思う。ためいきフェスティバルは、自分も参加してみたい。

●溜息に対する固定概念が変わった。周りのバランスをとるために奔走するたのちんが微笑ましい。加世堂さんのお母さんを見て、人の話を聞くって大事だなと思った。たのちんのお母さんは、たのちんと友達のような関係性を築いていいなと思った。友達同士で分かり合えないこともあるが、最後はほっこりした。絵がかわいくて表情豊か。小4の孫にも読んでほしい。

●内容に入り込めなかった。ためいきこぞうって、結局何なんだろう？最初はたのちんを助けてくれる存在なのかと思いきや、話を聞くだけで特に何もしてない。登場人物がみんな良い人すぎる。実際の小4は、もっと手前勝手に頑固。この本の著者は、虐待された経験があると聞いた。その経験から、学校に来れないこどもに向けてこの本を書いたのかな。

●出版された頃にこの本を一度読んだが、その時からいい作品だと思っていた。今年、読書感想文全国コンクールの課題図書に選ばれて嬉しかった。設定や登場人物の心情描写がリアルで、共感しやすい。「自分が小学生の時こういう子いたなー」と思いながら、楽しく読めた。加世堂さんが、これから少しずつ教室に戻ってこられるようになればいいな。絵がかわいらしく、作品の世界観に合っている。

●読書感想文全国コンクールの課題図書なのに、すごく面白かった。溜息のマイナスイメージが変わった。ためいきこぞうは話し相手になっているだけだが、そのおかげでたのちんは自分の思いに気づくことができたのでは。友人関係や親子関係など、問題がてんこ盛り。でも、みんなが少し前に進めたので良かったです。「思いやりをもちつづけたら、きっとよくなる」という尾崎君の言葉が良かった。

次回 9月8日(木)10:00~11:30 オーテピア 4階集会室

□『牧野富太郎 植物の神様といわれた男』横山 充男/著, ウチダ ヒロコ/絵 くもん出版

『草木とみた夢 牧野富太郎ものがたり』谷本 雄治/文, 大野 八生/絵 出版ワークス

申込み・参加費不要。新型コロナウイルス感染拡大の状況により、変更・中止となる場合があります。変更・中止については、オーテピアのウェブ・サイトにてお知らせします。